

ストラスブールに留学して学び、獲得した3つの事について説明します。

第一に、語学力が向上しました。語学力が向上したことについて主として3つの理由が考えられます。最初の理由として、授業で習ったことを授業後に街中で実践することが出来たからだと考えます。ストラスブールでの授業では、パン屋や観光案内所での応対など、日常的な場面を想定して勉強しました。そして授業後の、夕食や土産を買う時などに習ったことを活かすことが出来て語学力が向上しました。私はフランスの文化や食事など様々なものを体験したくて、毎日授業後に暗くなるまで積極的に街に出歩いていました。したがって、習ったことを活かす機会が多く、やりがいを感じてフランス語学習に対するモチベーションが上がりました。次の理由として、フランス人の友人が出来たからであると考えます。ストラスブール大学の日本語科の学生にプレゼンテーションをする授業が本留学のプログラムにあり、それがきっかけでフランス人の友人をつくることが出来ました。その友人とはよく気が合い、何度か遊びに行くことや、食事に行くことがありました。その友人ともっと沢山、もっとスムーズに話したいと思うようになり、勉強するモチベーションがとて



も上がりました。また、フランス語と日本語でお互いに補いながら会話をしたことにより、フランス語と日本語を照らし合わせて学習することが出来たことも語学力の向上に効果があったと思います。互いに教え合い語学力の向上を実感できたことは、単に学習成果をあげる事だけではなく、心に残る良い思い出でもあります。その友人とは連絡先を交換し、今後互いに語学学

習するために活用するつもりです。このように、海外の友人とのつながりを持てたことも本留学の大きな成果であると考えます。最後の理由として、五感すべてを使って語学学習できたからであると考えます。これは先述した二つの理由にも共通して言えることですが、実際にフランスの街並みを観て、街にいるフランス人と交流して、学校以外でもフランス語を使うということはとても刺激的で記憶に残りました。日本語は通じずフランス語を使うしかないという危機感のもと、全力で頭を使って生活した2週間はとても

も濃密で収穫の多いものとなりました。それは、パン屋や土産屋などでの対応を今でも鮮明に覚えているからです。そして、あの時このように言えばよかったという後悔や、この時この表現を使うことが出来たという嬉しさなどの感情と共に強く記憶に刻まれています。それらは今後の語学学習に対するモチベーションにもなると確信しています。これは留学の最大の利点であると思います。

第二に、海外の経験についてです。これに関して、フランスでは明確な自己表現が重要視されていると体感したことがとても印象的でした。その実例として、フランス語を話していて分からないことがある時や言葉に詰まってしまう時の対応が挙げられます。この際に、ただ黙って考えていると相手に不快感を与えてしまうことがありました。このような場合

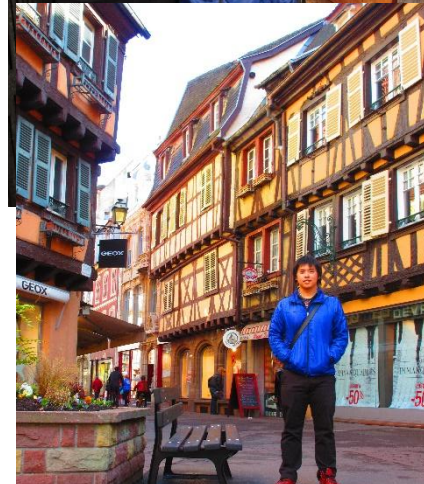


には、身振り手振りをして伝えることや、分からなくてもせめて何かを伝えようとしている姿勢をアピールすることが大切だと分かりました。そうすればフランス人は理解しようと努力してくれました。逆に、黙ったままでは意思がないと判断されてこちらが不利益を被ることがありました。私は最初に、これが日本と大きく異なることに驚き、日本と比べると過大な自己表現に抵抗がありました。しかし、最終的にはこのフランス文化を理解し、自分の意思をはっきりと伝えることが出来るようになりました。日本では相手の気持ちを察して行動することや、言外の意味を推し量ることが美德とされ、重要視されています。対してフランスなど欧米諸国では明確な意思表示が要求される文化をもっています。ここでは、どちらの文化が良い・悪いということを論じているわけでは

ありません。私の今回の留学の成果として、双方の文化の良い点・悪い点を理解することが出来たということです。他文化を理解することや複眼的視点を養うことが出来て、それぞれの場面において適切な言動をとることの重要性を学びました。この経験は将来に仕事等で海外に行くときはもちろん、これからさらにグローバル化していくと予想される日本の社会で働くための貴重な経験になりました。



第三に、精神的・社会的な成長についてです。私は実家から名古屋大学に通学しています。したがって、2週間一人で生活したことは初めてであり、食事以外の家事を



したことも初めてでした。とりわけ、初めてのことを海外ですという二重の負担に留学前は不安になりました。現地では洗濯や食事、場所を知ることなど、生活に必要不可欠なことにも当然フランス語が必要になります。したがって、どうにかしてフランス語でコミュニケーションをとらなければいけなく四苦八苦ししました。この危機感のもとに、言語はもちろん表情やジェスチャーなどのコミュニケーション能力も身につけることが出来ました。加えて、貴重品の管理など自分の身の回りのことはすべて自分で行うことや、体調管理などの自己管理をしっかりとすることも必要でした。したがって自分の言動に責任を持つことができ、安全に2週間の留学を楽しむことが出来ました。また、2週間19人の本学学生と共同生活をしたことにより学んだこともあります。特に、海外での生活ということもあり安全面を考慮して共同作業や団体行動を多く経験することになりました。その結果、チームワークや互いを尊重することの重要性を再認識しました。このように、私にとって初めてのことが多くて苦労しましたが、留学後には大きな自信となりました。そして同時に、親や姉弟の大切さ・存在の大きさを身に染みて実感し、改めて感謝の気持ちを持ちました。

